

(11) 教科内容先端研究センター**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

教科内容先端研究センターは、先端的な専門諸科学の知見に立脚し、先端技術を活用しつつ、次世代のための教科内容を研究・開発することを目的として、令和元年度10月1日に設置された。

イ 組織の構成及び構成員等

組織は、センター長1名及び教授10名、准教授2名で構成され、事務は研究連携課が担当している。

② 運営・活動の状況

学内教員3名が内田エネルギー科学振興財団の研究助成金を獲得し、連続フォーラムを全3回実施した。フォーラムは、主題を「地域課題からみた学校教育の将来像」として、各回のテーマを第1回「『創造的過疎』による持続可能な地域づくり—徳島県神山町のまちづくりに学ぶ—」（認定NPO・法人グリーンバレー理事・大南 信也氏）（令和4年11月5日、講301教室、上越市創造行政研究所との共催）、第2回「発酵のまちづくりで健康なこどもの未来を—上越の発酵食の魅力—」（東京農業大学名誉教授・小泉 武夫氏）（令和5年2月23日、講301教室、上越市後援）、第3回「グローバル危機の時代の『ご当地エネルギー』の現在と未来」（特定非営利活動法人・環境エネルギー政策研究所所長・飯田 哲也氏）（令和5年2月28日、講301教室、上越市後援）と題して開催し、その録画を希望者に動画配信サイトにおいて配信した。

各回とも、学生、現職教員及び一般市民を対象に開催され、講師による講演会の後、トークセッションで質疑応答を行い、今後の学校教育のあり方について共通理解を得た。連続フォーラムの開催にあたり当センターの教員が、内田エネルギー科学振興財団が公募する助成事業に応募し、3件採択された。（前年度比同）また、コロナ禍における講演会の開催方法についても大教室で参加定員を限定し、希望者に録画を配信する等の工夫をして、感染拡大防止に努めた。

今後も外部資金を獲得できるよう助成財団へ応募し、フォーラムを開催することで、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信できるよう取り組む。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

新型コロナウイルス感染の状況を考慮して、第1、2、3回目ともに大教室において参加者の距離が密にならないよう定員を限定するかたちで実施した。また、リアルタイムに受講できない参加希望者のために、You Tubeによるオンデマンド配信（限定配信）を行った。今後は、引き続き教育関係機関への支援機能を果たしていくとともに、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信することのできる体制の整備、学外研究員との連携を検討する。